

第4回洛西ニュータウン創生推進委員会を開催しました

2月29日、洛西ニュータウン創生推進委員会は、平成19年度最後の会議を開催しました。

まず1月17日に実施した「千里ニュータウン見学会」の報告とともに、山田副委員長から、2月16日に全国12箇所のニュータウンの住民代表が集って千里で開催された「ニュータウン人縁卓会議」についての報告が行われました。続いて、「まちづくりフォーラム」の開催についての検討後、部会担当委員から、各部会の取組状況についての報告があり、それぞれの課題等についての意見交換がされました。最後に、平成20年度についても、平成19年度から継続した取組を行うことを確認しました。

また、会議冒頭、勝本委員長から、ホテル京都エミナースの存続について、洛西4学区・地域の自治連合会長と協議し、西京区自治連合会全体の動きとして、1万6500人を超える住民の署名を集め、榎本頼兼前京都市長、内海貴夫京都市会議長並びに山田啓二京都府知事に存続活動の申し入れを行ったことの報告がありました。なお、委員会終了後、傍聴者と委員会委員との意見交換も行われました。

【環境部会】の活動報告

- ・ 公園・緑地、街路樹等の管理のあり方や、地区計画や景観のルールづくりなどを検討している。
- ・ 洛西ニュータウンのセールスポイントの発信や通りの愛称づくりを検討している。通りの愛称づくりについては、フォーラムでご意見をいただきたい。
- ・ 環境・エコについては、ゴミの分別、天ぷら油の回収などについて検討している。

【安心安全・子ども育成部会】の活動報告

- ・ 子どもの安心安全については、洛西交番連絡協議会で話し合う。門灯をつける運動や、街路樹で照明が遮られないよう剪定を推進する活動などを検討している。
- ・ 子育て支援の行政等による施策は一応充足しているが、情報が欲しい人に届いておらず、RCVやラクセーヌ掲示板等による情報提供の協力を依頼したい。
- ・ 住民参加のもと、子どもが自由に自己責任で遊べる「プレイパーク」や地域の財産を活用して子どもが学び遊べる「地域クラブ」の研究をしている。洛西ニュータウンをふるさとと思えるようなものをつくっていきたい。

【コミュニティ部会】の活動報告

- ・ 住みよいまちは、日頃から住民同士のコミュニケーションが盛んで、人と人との絆で結ばれている。災害や急な病気のとき頼りになり、日常生活の安心安全を支えている。
- ・ 高齢者や障害者にとって住みよいまちは誰にとっても住みよいまちである。気軽に顔を合わせる場づくり、機会づくりが大事。学校の空き教室の活用などを検討している。
- ・ ニュータウンは同世代が一度に入居したため高齢化が一気に進んで、活動の担い手が少なくなっている。元気な方にはまちづくり活動に参加していただきたい。

【生活機能向上部会】の活動報告

- ・ 特西3系統を昼間も運行できないか検討している。
- ・ ニュータウンの外周のバス運行ルートをつくって、内部はマイクロバスを運行するという案も出ている。2、3年のスパンで実現可能なことを提案していきたい。
- ・ 利用者があり、採算が見込めることも必要である。
- ・ 醍醐コミュニティバスの運営等についての見学を考えている。
- ・ サブセンターの活性化のため、空き店舗にコンビニ等の誘致ができないか考えている。

【委員会における主な意見】

- ・ 部会で取りまとめた内容については、委員会で調整し議論したうえで各部会で進めていくことを原則とする。
- ・ タウンセンターは、コミュニティの場ともなっている。サブセンターもそういう場づくりが必要である。
- ・ サブセンターの機能強化については課題であるが、採算が取れないと商業施設は来ない。ニュータウン内の店舗を維持するためには住民がサブセンターを支えることが必要である。
- ・ 委員会で地域の祭りの後援をすることで、洛西ニュータウン全体のものとして交流を深めることを提案する。
- ・ 部会が独立して取組を進めるだけでなく、合同開催するなど連携した取組が必要である。
- ・ 大学も、地域の活性化の一端を担う主体として、地域と大学の連携を議論していきたい。
- ・ 新年度からは、部会委員が部会運営を担っていくので、部会代表の部会委員が委員会に出席することが必要と考える。